

巡検に出る前に

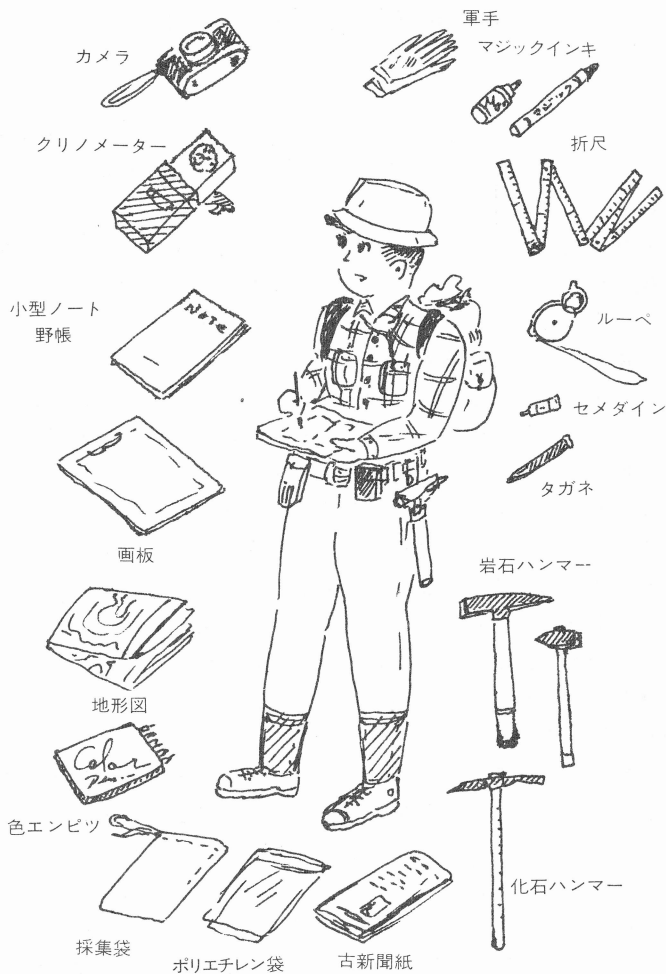
地質調査や巡検に出掛ける人々の仕度^{たく}を見るとまことにさまざまであって、それぞれに経験に基づいた工夫のあとがうかがわれる。第一に注意することはハンマーのことで、木工や金工用の金槌・ハンマーの類を使うことだけはやめたがよい。岩石や鉱物の多くは軟鋼より硬いから、このようなハンマーでは割ることもできないし、ハンマーが1日で傷だらけになってしまう。石工や左官が使うハンマーは代用品として使えるし、値段も安い。

クリノメーターは地層の走向・傾斜を測るだけでなく、位置や高度などの簡単な測量もできるので、その日の対象が堆積岩でなくても常に携行するのがよい。近頃はクリノコンパスと称して、鏡や指方規などがついたものを使う人が多い。地層の面の下に押し当てて測ることができるし、分度器の代用にもなる。測量のアリゲードとしての効用もあって便利なものである。

石を新聞紙でつつんだり、ポリエチレンの袋に入れただけでは、リュックの中でとび出して、石もきずだらけカメラや弁当箱も傷だらけになりかねない。布の袋を用意して、紙で包んだものをこの中につめこむのである。

登山やピクニックの人は持物の一切をリュックに収め、すっきりした姿で歩くことができるが、石や地質を調べようとするわれわれはこれではいけない。道を歩きながらでも、露頭に会っても、地図や野帳、ハンマー、クリノメーター^{ひんばん}を頻繁に出し入れしなければならない。腰の雑のう、ポケット、首から下げたひもなどにつけておくのはそういう類の品物である。だから腰の周りは弁慶のそのようなにぎやかな姿になるわけである。

登山靴または地下足袋^{きのほん}というような足ごしらえをするのは、道のないところに入らねばならないからである。ちょっとした草むらや崖でも短靴や半ズボンでは入れないから、つい不精な気が起こ



巡検の身ごしらえ

ることになりかねない。そうしてまたマムシの害から身を守るためにも実行したいものである。

サルトリイバラ・ノイバラなどの多いところに入ったときは、厚地の服装が行動を楽にする。夏でも長袖のシャツがよいというのはこんな必要があるためである。経木の鑢ぎょうぎの広い帽子つばは日除けにはよいが、やぶにはいるとじゃまになるからやめた方がよい。日射に弱い人はサングラスや紫外線よけクリームを使う工夫もある。

巡検や地質調査では1日に20kmも歩くなどということはできない。それだけ見ることも書くことも多いのである。露頭での観察は、位置の確認に始まり、他の露頭との関係から、岩石中の造岩鉱物にいたるまでの、巨視から微視までの多種多様なことがらに気を配らねばならない。まことに忙しいものである。だからといって観察や記録をおろそかにするのもよろしくないから、能率よく事を運ぶ工夫が必要である。それには、1) やる仕事の順序を一定にして習慣化する。2) 記録には略した符号を使う。3) 忘れやすいことがらだけを現地で記録し、その他のことは休憩時間に補筆する。家に帰ってからということにすると、忘れて思い出せないで後悔するから、なるべく早くやることである。4) 地図になるべく多く書くようにすることもよい。地図の余白や海面の部分を利用して何でも書いていくことにすれば、野帳を取り出す手間が省ける。後で野帳に転記した後、地図の方は不用のところを消せばよい。

日本の山は植物がよく繁り、表土もあって岩石が露出してないところが多い。だからといって通り過ぎないで、ハンマーで少し掘ってみると、大抵は風化してはいても岩石が出てくるものである。岩石や地層の境界を探そうとするときなどは、どうしてもこうした勤勉さが必要である。今歩いている方位、走向や傾斜などが常に頭の中にあるように気をつけることが必要。言いかえると、頭の中で立体的な地質構造を画きながら歩くことである。しかしこれはもっともむずかしいことで、一朝にしてここまで達するものではない。

(石井哲夫)